



【インマヌエルとして来られたイエス様(聖誕メッセージ)】

聖書本文:イザヤ書 9:6-7 / 暗唱:マタイの福音書 1:23

説教:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん!メリークリスマス!今年もクリスマスに訪れるインマヌエルの主のイエスキリストの祝福と平安が皆様のご家庭、人生の上に豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます!

【今日のクリスマスに思い出せる物たち】

みなさん。クリスマスと言われると何を思い出しますか。クリスマスと言われると思い浮かぶいくつかがあります。一つは'クリスマスツリー'です。毎年 12 月になるとかならずツリーが登場します。すると、'あー! クリスマスが近づいているんだな。!'と思わされます。まわりにも、町のどこにも、今年も間違いなく、駅前の広場にもツリーがあがりました。ツリーの起源を探してみると 8 世紀イギリスの'フォニフェイス'という宣教師がドイツのある地方に宣教師として入りましたが、その町の地域の神々である'オディン'に毎年カシワの木に拝みながらいけにえをささげているその町の人々を見て、それを禁じさせるために考えたすえ、いけにえより代わりにクリスマス時期にモミの木に主にささげるプレゼントをぶら下げることを進めることからクリスマスツリーが始まったそうです。それが 16 世紀に入ってドイツのルータル先生がモミの木を室内に持ってきてそこにあかりをつけ、様々なプレゼントをぶら下げたことが流行りになって今日のようなクリスマス飾りのツリーに伝わって来ています。

そしてクリスマスになると、'サンタクロース'おじいちゃんも思い浮かべるでしょう。小さい子供たちにはこのサンタの存在がとっても大きいですね。親がプレゼントを買っておいてそれをサンタさんがもって来てくれたと言います。それで、子供たちに夢を与え、クリスマスに対する期待を植えさせています。ある子供は本当にサンタさんがプレゼントしてくれていると思っていて、遊んでいたおもちゃが壊れると放送局(ほうそうきょく)に電話して'何でサンタさんは壊れたおもちゃをくれるのか'と訴えた場合もあったそうです。これほど子供たちは純真です。しかし、実は'サンタクロース'は伝説の人物でしょう。我々が言っているサンタクロースとして知られている人物は AD 270 年むかしのトルコの港(みなと)都市だったパターラーで生まれ 343 年 12 月 6 日に死んだ'セイントニコラス'という人です。この人は慈善(じぜん)をよく施していた人として知られています。その方の実話の中でこのような話があります。ある結婚適齢期になっている'三人の姉妹'にお金がなかったため町の遊女として売られなければならないことを知って、金が入った袋三つをこっそり置いて来ました。それがきっかけで今日のプレゼントの入ったサンタの靴下のようなになったそうです。

'セイントニコラス'がサンタクロースになったのはいろんな国を航海(こうかい)していたオランダの船員たちによって伝わる過程でオランダの発音で'シンテルクラス'に変わって、サンタクロースになったそうです。ここでサンタクロースが良いプレゼントをくれる存在になったのです。そしてオランダのお母さんたちは子供たちに伝説を作って'話をちゃんと聞いて、ほめられた子供たちに'サンタおじいちゃんがプレゼントをくれるよ'という楽しみを与えたそうです。これがサンタの由来です。今日の赤いクリスマスサンターのキャラクターはアメリカのコカコーラ会社が商売のため 1931 年作ったものです。

クリスマスと言われるとまたクリスマスカードも思い浮かびます。この頃はカードを郵便で送ることが少なくなってきましたが、カードはもともと 1843 年イギリスの美術教師二人がカードを作ってお互いに送ったのが始まりだそうです。それがこんにちには全世界的に使われています。クリスマスはこのようにカードとツリーをとおして鐘の音とキャロルの歌声に乗って我々になじんで来ます。すると、みなさんクリスマスカードを送って、ツリーを作っておけばそれでクリスマスでしょうか。違います。その意味を知らなければなりません。そうじゃありませんか。

アメリカである教授が学生 40 人にアンケートを聞きました。多くの学生たちが'クリスマスツリー、サンタクロース、キャロル、カード'などを書きました。ところが'イエス様の誕生日'だと答えた学生は一人もいなかったようです。このように今日のクリスマスは商売のため、快樂に促されてしまい、その本質がにごってしまいました。'John David'という人は二つのクリスマスがあるとしました。一つはキリス

ト信者たちがキリストに真心をもって礼拝するクリスマスであって、もう一つは X-Mas だと言いました。この'X'という記号は本来はキリストの略字(りゃくじ)ですが、数学用語としては未知数(みちすう)です。多くの人々はクリスマスを X-Mas として守っています。これは何の意味も知らず、自分の欲望を満たす日として守っていることを指摘したのです。我々のイエス様は 2000 年前にはメシヤとして、キリストとして来られ、いまもなお御言葉と御霊をとおして来られ、やがて再び来られる再臨の主です。「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる。という意味である。)その名をイエスとつけなさい。!」

するとクリスマスの真の意味は何ですか。愛です。「神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネ 3:16) 神様は御自分のひとり子をとおして神の極致の愛を表してくださった日なのです。しかし、この世のクリスマスはますます形だけ残り、遊び中心の文化に変わっていくのです。救世軍の創始者である'ウィリアムブーツ'先生は“いつの間にか、イエス抜きでクリスマス。十字架なしのキリスト教を信じる日がやってくるだろう。”と言われましたが、それが当てはまってきたようです。クリスマスが近づいて来ると素早くクリスマスを知らせるところは教会ではなくデパートであり、居酒屋であり、郵便局などです。クリスマスとは何の意味も、関係もなく 商売の策略(さくりやく)ためクリスマスの形だけが知らされて来ているのをみなさんも実感しているのではないのでしょうか。

まずクリスマスは '神様の約束(予言)の成就'です。

創世記 3 章に罪を犯した人間たちに神様は創世記 3:15 節に'女の子孫'を送ると言われました。これが旧約の約束ですが、旧約は来られるメシヤへの予言の言葉です。神様はイエスが来られる 700 年前すでにイザヤ預言者をとおして予言されました。

イザヤ 7:14 節「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。」そしてマタイの福音書 1:22-23 節の「このすべての出来事は、主が預言者を通して言われたことが成就するためであった。「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)」とイザヤ 7:14 節の御言葉を引用しています。そして、イザヤ 9:6 節にはそのインマヌエルの神である主イエスキリストに対してこのように紹介されました。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり。その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」

【お生まれになるインマヌエル主の三つの姿】(イザヤ 9 章 6 節中心)

▶まず、旧約聖書のイザヤ 9:6 節では **来られるみどりごイエスの姿を三つの予言として**に表しています。

(1) **「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。」**メシヤの姿を説明しています。その方は大人の姿ではなく赤ん坊の姿で来られました。イエス・キリストの人性(じんせい)について言っています。主はまことの人間として来られました。人間だからこそ死なれるでしょう。神様は死ぬことができません。イエス様は我々のかわりに十字架の上で死なれるためにこの地に来られたのではありませんか。まさしく人間なるイエス様について説明してくれる聖句です。

(2) **「ひとりのおとこが、私たちに与えられる。」** 神様は神様のひとり子をお私たちに与えて下さったのです。神様の側からみれるご自分の息子を世に与えて下さったのです。つまり、これは神なるイエス・キリストを表してくださる聖句です(ヨハネ 3:16)。

(3) **「主権はその肩にあり」**主権と言うのは統治者という意味があります。つまり、イエス様は統治者であり、王の王としてこの世のすべての主権を持っておられるという意味です。イエス様は全宇宙を治める王の王です。この三つがこの地に来られたメシヤの姿です。イザヤはイエス様はこの地に来られる 7 百年前'処女がみごもって男の子を産み、その子は全世界を治める主権を持っていると予言しました。なんと驚くべきことでしょうか。主権はその肩にあると言っています。これはこの子が宇宙を統治し世界史と民族史、全歴史を治める主権を持っているという意味です。それだけではなく個人と民族の運命もこの子の手にかかっているという意味でもあります。そして、その方が天と地の主権を持ち、王の王として来られました。

ですから、クリスマスというのはイエス・キリストが王の王として来られる事を告げ知らせる日です。その肩に世界を背負い、すべての人類を治めることのできる主権を持っておられるすばらしいお方、その方がみどりごとして来られた日が、まさにクリスマスなのです。

【お生まれになるインマヌエル主イエス様の五つの別のお名前。】(イザヤ9章6節中心)

▶ そしてイザヤ預言者はメシヤの名(イザヤ9:6)を 五つの表現で表しています。

(1)メシヤの一番目の名前は【不思議な方】です。英語の聖書はこれを'Wonderful'という単語で翻訳しています。メシヤがこの地上で行なわれるすべてが不思議であり、驚きであるという意味です。ですからこのみどりごの名前はとつても不思議'という意味です。我々がみどりごイエスの'正体'について、存在について不思議であるという単語しか、ほか説明しようがありません。日本語の表現でも不思議、すばらしいしか表すことができませんが、あまりにも不思議なため人間としては解釈しきれない方という意味です。その方の誕生はまさしく不思議です。御霊をとおして女の子孫である少女マリアの体を借りてお生まれになったその方の誕生が不思議であり、その方の死も、その方の復活も不思議です。

(2) メシヤの二番の名前は【助言者】です。英語では'Counsellor'だと訳されています。助言者と言う意味です。我々がどんな問題でもイエスのもとに持っていけばイエス様はその問題をクリアさせてくださる方です。苦しみを覚えて楽しみにさせてくださいます。どんなに暗闇に歩んだとしても光を照らしてくださいます。そして我々が受けた侮辱を変えて我々を高くあげてくださる方がまさしくメシヤです。そうです。イエス様は我々の'助言者'として我々の人生の道を正しく導いて下さる方です。詩篇 37:5 節「**あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。**」

(3) メシヤの三つ目の名前は【力ある神】です。その方の力は無限です。水をぶどう酒に変えられることができます。五つのパンと二匹の魚で 5 千人を食べさせることができます。風と嵐をしずませることができます。中風の患者も癒し、目の見えない人、耳の聞こえない人も癒すことができます。どんな問題でも解決できる方が我々の主イエスキリストです。イエス様は死んだ者を三人も生き返らせました。'会堂管理者であるヤイロの娘、ナインの町のやもめの息子、マリヤ兄ラザロ'です。死んだ者を生き返らせる力はただいのちの主人であられる全能の神様しかできません。我々がその全能の神様に拝見することができるのです。どうやってですか。その方を受け入れればです。(ヨハネ 1:12-「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」)

(4) メシヤの四つ目の名前は【永遠の父】です。ここで父とは'創造主'もしくは'主権者'という意味です。その方は永遠な方です。ヘブル人への手紙記者は「**イエスキリストはきのうもきょうも永遠の変わらないお方(ヘブル13:8-「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも同じです。）」**だと言いました。そうです。永遠に生きておられる父です。父は子供たちの保護者であり、愛で養(やしな)ってくださる方です。その方は父の愛でいつも我々をつつんでくださいます。我々は弱いです。ですから、時にはつまづきます。信じているといいながらもその方を悲しませる時が多くあります。しかし、その方は我々を見捨てることはありません。けっして我々を離れることはありません。どんなに我々がその方から遠く離れたとしても放蕩息子が両手をあげて父の家に戻る時のように、我々も悔い改めながらその方に戻ると、その方は無限の父の愛をもって我々をあたたく迎え入れて下さいます。

(5) メシヤの五つ目の名前は【平和の君】です。イエス様は我々の重荷を負ってくださり、我々の心に平安で満たしてくださいます。この世の何よりも、だれからも与えられないまことの平安、つまり、'Shalom'を我々の心に与えて下さいます。その方のみがまことの平安の根源地であり、供給者(きょうきゅうしゃ)です。ヨハネ 14:27 節「**わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」**」そうです。クリスマスは平和の主がお生まれになった日です。「御使いは彼らに言った。「**恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって銅葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」**「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」(ルカの福音書 2 章 10-14 節)」

クリスマスを迎える世界の人々は心の平安、家庭の平安、世界の平和を切に求めています。私たちがそうではないでしょうか。神様は

人類の一番切実な願いは平安であり、平和であることをご存知でした。そういうわけでひとり子イエスキリストをこの世に送ったのです。しずかな夜空で天使たちが叫んだように、イエスキリストがこの地に來られたのは“天には栄光、地には御心にかなう人々平和”そのものだったのです。2000年が過ぎたいまでも全人類にイエスキリストの到来は一番の喜びの良いお知らせとなっています。

“ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。”

(ローマ書5:1)、コロサイ人への手紙1:20 “その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも、天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。”

イザヤはお生まれになり、我らと共におられるインマヌエルの主イエスキリストを‘平和の君’と言いました。ですから、平和の王が生まれた日なので、あらゆる争いをやめなければなりません。憎む心を捨てなければなりません。それで、家庭が平和で、教会が平和で、職場が平和で、社会が平和でなければなりません。我々は積極的に平和を作る‘ピースメーカー’にならなければなりません。

世界第二戦争の時、フランスで連合軍(れんごうぐん)とドイツ軍が戦争する時、12月24日連合軍の兵士たち3人が夜道を失ってしまいました。寒いし、お腹もすいてきました。山の道をさ迷っていた彼らは明かりを見つけ近づいて行って見たら、民家でした。兵士たちはドアをたたき、おばさんが開けてあげました。食べ物をお願いしている兵士たちに、おばさんはドイツ軍にばれると大変な目にあってしまうのにもかかわらず、おばさんは兵士たちに食べ物を与え、体を暖めるように部屋をあけてあげました。しばらくしたら、まただれかがドアをたたいています。おばさんが見たら今度はドイツ軍の兵士二人が銃をもって立っていました。おばさんは怖くなりましたが、大胆にドアをあけてあげました。彼らにも食べ物を与え、あたたかい暖炉に彼らを案内しました。彼らはそこで体を暖めるうちに寝てしまいました。とうとう12月25日朝になりました。おばさんと娘と息子がクリスマスの朝、賛美をしながら礼拝をささげました。兵士たちもそれぞれ起き上がってきました。ドイツ軍、アメリカ軍、フランス軍、イギリス軍がともに集ってきました。5人の兵士と3人の家主がともに‘きよし、この夜、’を歌いました。そして平和の主が來られたことをともに賛美しました。彼らは感動のクリスマスを迎えました。彼らはそれぞれ自分たちの宿営に戻り、クリスマスの休戦(きゆうせん)を宣布(せんぷ)し、しばらく戦争をやめたそうです。

みなさん! ひとりの子が我々に与えられました。そのみどりごは神様が私たちに与えられた神のひとり子です。その方は王の王としてこの地に生まれました。不思議な方として、助言者として來られました。力ある神として來られました。永遠の父として來られました。平和の君として來られました。いまもその方は我々に語ってくださっています。「疲れた人、重荷を負っている人はみなわたしに來なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう。」我々のすべての重荷をメシヤとして來られたイエス・キリストにおろしましょう。インマヌエルとして來られたイエス様は私たちと永遠にともにおられます。マタイの福音書 28:20 節「見よ。わたしは世の終わりまであなたがたといつともともにいる。」みなさん、我々のまわりの愛する人々はいつかはかならず離れていきます。親も、兄弟も、妻も、夫も、子供たちも、友達も、そしてお金も、権力もいつかはみな我々から離れて行きます。

しかし、我々と永遠にともにおられる方がいます。それはイエス・キリストです。我々がこのクリスマスを喜び、お祝いする理由がここにあるのです。私たちがこの世を離れる時までそして永遠に私とともにおられるそのイエス様が私の主として來られた日がクリスマスなのです。インマヌエルの主! 我々にいのちがあるかぎりいつともにおられるでしょう。ですから、クリスマスには希望があります。

愛する、みなさん! この一年どんなにつらいことがあっても、このクリスマスからやり直せることができます。!

今回のクリスマスを迎えながら、私とみなさんを苦しめている苦しみと暗闇の力とのろい、やまい、失敗、いたみ、悲しみ、涙そのすべてを脱ぎ去って心の天国、家庭の天国、教会にある主の御国を経験される愛するクリスチャンプレイズチャーチの神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!